

---

# カルマの坂

墮天の追放者

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

カルマの坂

### 【Nコード】

N5096H

### 【作者名】

堕天の追放者

### 【あらすじ】

ある時代。ある場所。少年は生きるために盗みをはたらいていた。

（前書き）

ポルノグラフィティのカルマの坂という曲の世界観をもとに書いた  
小説です。

気になるかたは曲の歌詞のほうも見てください。

「はっ、はっ、はっ……」

左右の景色が流れるように過ぎていく。

少年はパンを抱えながら走っていた。

今まで執拗に追いかけていた大人たちを姿はもう見えない。

（もう、振り切ったのか？…）

そう思ったが少年は走る足を止めることはなかった。

この世界では一瞬の油断が命取りになることを彼は知っていたからだ。

「はっ、はっ、はっ……」

彼は走り続けた、生き延びるために。

…そう、彼は生きるために盗みをはたらいていた。

このパンも盗んだ物だ。

そして走り続けているうちにフードを被った行列が現れた。

「この行列もどうせ売られてきた人たちだろ……」

そう思いながらも彼は走ることをやめなかった。

大体行列の中盤にさしかかったあたりである一人の少女に目を奪われ立ち止まった。

なぜかは彼にもわからないただ彼女の頬に涙の雫が落ちた気がしたからだ。

少年は彼女に思想を与えたいと思った。

そして後ろを振り返り行列が目指す貴族の家を見上げる。

「俺に何ができるだろう…」

答えは簡単だ、何もできやしない。

彼は拳を握り締め、その場に立ち尽くした。

そうこうしてる間にまいたと思っていた大人たちの声がした。

「…っ！」

彼は再び彼女のほうに目を向け…。

「俺に何ができる…」

彼はそうつぶやきただ一言叫びながら走り始めた。

「なんでなんだよお—————!!」

彼はそう叫び夢中で走った。

その時彼女が振り向いたことに彼は気づかなかった。

…一体どこまで走ったのだろうか。

あたりはすでに日が暮れていた。

気づくと盗んだはずのパンは彼の手に無かった。

どこかで落としたのだろうか。

しかし、彼にとってパンなど今は必要なかった。

今、彼に必要なものは刃物だ。

彼は閉店間際の武器屋に忍び込みふたたび盗みをはたらいた。

盗んだあとにカルマの坂まで剣を抱え走り終えたあと、その剣の重みに気がついた。

「少し重いな…」

彼はその剣を一度置き剣の柄を握り剣先を引きずりながらカルマの坂を上り始めた。

その姿は完全とよぶには程遠いだろう。

それでも彼は歩き続けた。

ふと、気づくと彼は貴族の屋敷の前に立っていた。

「ここに、彼女はいるのだろうか…」

昼間見たときとは違い、暗いその屋敷は邪悪なものに見えた。

その屋敷に向かって彼は剣を構え走り出した。

門の前には見回りの兵士だろうか、二人ほど人が立っていた。

彼は一人の兵士に駆け寄ると躊躇無く携えた剣を首元めがけ振り切る。

その兵士の生死の確認はせずもう一人の兵士に斬りかかった。

そして、兵士の崩れる音を背に彼は屋敷の中へ向かった。

屋敷中の扉を開けていき中に人がいる度に斬りかかる、

そんなことを続けているうちに屋敷は赤く染まっていた。

いくら人を殺したかわからなくなってきた頃、彼は彼女を見つけた。

「あ……。」

彼はどうしたらいいかわからなくなり何か声をかけようと思ったが、言葉にならなかった。

そうして立ち尽くしてるうちに、彼は彼女の異変に気づいた。

笑っているのだ…、ただただ笑っているのだ…。

何も無いのに…何も無いところに向かって…

「お、おい大丈夫か？」

彼女は彼の言葉に気づくことなくただただ笑い続けている…。

そんな彼女を見て、彼は自分の母親を思い出した。

彼の母親は借金に追われ、貴族に売られていった。

一年後彼の元に帰ってきた母は薬で自我が崩壊していた姿だった。

…彼は悟った、もう手遅れだったのだと。

彼は壊された魂の少女に最後の一振りを振るった。

血で穢れきったその剣を持ちながらも、彼の心は真っ白だった…。

何事も忘れていた…いままで…ただ夢中で…。

「…腹…へったな。」

彼はそう言ってその場にうずくまった。

いつまでも…いつまでも…

うずくまっていた…



**（後書き）**

初投稿なので文の乱れなどはご了承ください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5096h/>

---

カルマの坂

2010年12月22日02時20分発行